

# 中国高等教育大衆化改革における

## 大卒者就職に関する実証研究—上海を事例とする—

李敏(お茶の水女子大学大学院)

### I 問題の設定

従来、中国就職市場の寵児だった大卒者は、近年、未曾有の就職難問題に遭遇しはじめた。その主な原因は、1999年より始まった急速な高等教育大衆化政策がもたらした高等教育の規模の膨張であると言われている。2003年、大衆化改革で進学した4年制大学生がはじめて卒業を迎えた。当年度の卒業生数が、前年度の46%増の212万人に達したに対し、職場の増加は微々たるもので、大卒者の就職率が卒業直前<sup>1</sup>の6月20日までわずか50%だけにとどまっている。2004年度の大卒者人数は、2003年よりさらに68万人増(32%増)の280万人に達した。それにより、就職事情は、一層悪化した。大卒者就職の不況は、初任給にも反映されている。2004年大卒者の初任給は、2003年より25%~30%低下するという予測がある<sup>2</sup>。

一方、大衆化改革によって、大学授業料が大幅に上昇したため、大学進学の実質的な収益率が低下したと言えよう。それゆえ、より高い収益率を求めて、就職の代わりに、大学院進学、海外留学を選択する大卒者数が年々増えている。2004年、大卒者のうち、16.9%(47.4万人)の学生が、大学院進学を志望し、その人数は、前年度より24.5%、9万人の増加であった。留学も同じ傾向が見られる。ところが、1998年以

来、従来無償だった大学院教育も、一部有償になった。そのうち、有償枠の拡大につれて、大学院教育有償制の全面実施も間近である。それゆえ、大学院進学のコストの上昇にしたがい、家庭収入の低い出身の大卒者にとっては、大学院の関門が狭くなる。留学も同様、家庭の経済力が前提となっている家庭出身の大卒者は、卒業にあたって、進路選択が一層困難になるだろう。

本稿は、深刻化しつつある大卒者就職難、及び大学院進学コストの急増などの背景で、①大卒者がどのように進学、就職、あるいは留学という三者の中、進路選択をするのか、そして②就職に成功した、及び就職に失敗した人たちがそれぞれどのような人なのか、つまり進路選択と就職の決定要因について、筆者が2004年5月下旬から6月上旬にかけて実施した実態調査の結果に基づいて、考察するものである。

### II 調査の概要

筆者は、2004年の5月下旬から6月上旬にかけて、上海にある8校の大学に在籍する1040名の卒業予定者を対象に質問紙調査を実施した。8校の中で、a大学、b大学、c大学、及びd大学は、いずれも教育部所属の重点大学であるが、aとb大学は、教育部が「世界トップ大学と高水準大学を建設するため、重点的に支援する大学」いわゆる「985プロジェクト」(35校)に選ばれたため、c大学とd大学より一段とランクが高いと考えられる。e大学とf大学は、いずれも90年代高等職業学校と短

<sup>1</sup> 中国の大学生の卒業時期は、普通6月末にある。7月より、社会人として、人生の新しいページが開かれる。

<sup>2</sup> 北京外企太和企业管理顾问有限公司(北京外国企業管理コンサルタント株式会社)2003年12月の調査による。

大より4年制大学に昇格された上海市地方政府所属の大学である。さらにg校とh校は高等職業学校という3年制の短大である。その中で、g校は、2001年成立した私立大学であるにもかかわらず、学生の大学入試成績からみれば、h校とほぼ同じランクにある。そして、h校の在学者は、普通高等学校から入学した人のほか、中等職業学校からの卒業生も含まれている。各大学の特徴によって、この8校をA、B、C、Dの四つのグループに分けた。

そして、調査対象者の専攻は、①理科系：IT、工学と理学、②文科系：人文学、外国語と経営・法律という六つの分野にわたる。調査対象の具体的な属性は表Iに示されている。

質問紙の配布は、各大学の教員、及び大学学生会（学生自治会）を通して、基本的にクラスと宿舎を単位として調査表を配布し、回答後に回収する方法をとった。合計1800部の質問紙を配布したが、そのうち1040部の有効回答(有効回答率57.8%)を得ている。この点で、厳密な意味での系統抽出を行っていない。卒業間近の時期に、大卒者が授業のような集まる時間が少ない

ため、なるべく多くの大卒者からの回答を確保するためにとった方法である。したがって、分析結果は、高等教育全般的傾向を示すものではないことに留意することが必要である。

質問調査のほか、筆者は6月上旬に、各ランクの大学の大卒者8名に対し、就職活動をはじめとする大学生活をめぐり、インタビューを実施した。その内訳は、表IIのようである。多くの層の大卒者の特徴を聞くため、調査対象者は、各属性の大卒者から抽出したものである。

### III 分析の方法と結果

本稿は、進路選択の決定要因を以下の三つに分ける。①学生の基本情報：ジェンダー、学校ランク、専攻；②学生の家庭背景：戸籍所在地（地域、及び都市部と農村部）、親学歴、親職業；③学生の学業状況：成績、奨学金、資格、外国語能力、中国共産党員に加入状況、学生幹部担当の状況、及びアルバイト経験の有無などである。以上の各要因に対して、重回帰分析を行う。分析の結果とその含意について、当日配布資料で詳細に展開する。

表I 調査対象大学の属性

		IT関係		工学		理学		人文学		外国語		経営、法律		男性		女性		N		
ランクI	a大学	62	24	38	2	90	48	75	64	51	6	174	133	246	124	244	153	490	277	
	b大学		38		36		42		11		45		41		122		91		213	
ランクII	c大学	19	8	96		38	33	46	29	32	31	16	6	148	49	99	58	247	107	
	d大学		11		96		5		17		1		10		99		41		140	
ランクIII	e大学	25	24		48			1	1		4		19		101	59	60	37	161	96
	f大学		1	112	64										42		23		65	
ランクIV	g大学			73						69	69				74	19	50	69	69	
	h大学				73										55	68	18	142	73	

表II インタビュー対象者の属性

分類	大学	学生	性別	専攻	出身地	進路
ランクI	a大学	張くん	男性	理学	甘肅省農村部	大学院進学(経済学)
	b大学	陳さん	女性	外国語	上海市都市部	外資系企業就職
		王くん	男性	IT関係	広東省都市部	国営企業就職
		鄭くん	男性	IT関係	上海市農村部	外資系企業就職
ランクII	c大学	黄さん	女性	経済学	山東省都市部	大学院進学(金融学)
ランクIII	e大学	強さん	女性	商学	安徽省農村部	大学院進学(教育学)
		楊さん	女性	商学	広東省都市部	就職活動中
ランクIV	g大学	馮さん	女性	外国語	上海市都市部	出身大学で事務員として就職